

資料1 「北海道戦略広報基本方針に基づく取組について」

- ・ コロナ禍において、ネット配信はいずれも前年以上のアクセスを集めている。

- ・ 民間企業との多彩な協働が目をはく。

- ・ AT（アドベンチャーツーリズム）向け情報を国内富裕層向けに転用し、発信してはいかか。

広々とした空間が豊富にある北海道で密にならない個人旅行、他者との接触のないプライベートな宿泊や体験等は、コロナ禍においても、また、アウトバウンドやインバウンドは当面期待できないアフターコロナに向けても合致すると思う。

- ・ 民間企業などとの協働による広報の推進は、身近なところで目にする事ができてどの世代に対しても効果的なので、さらに増えると良いと思う。

- ・ 多様なメディアを活用して広報活動に取り組んでいることがよく分かった。若者が多く利用するラインなどをさらに活用してほしいと思う。

- ・ 北海道移住を考える人が頼りにする情報源は、先に移住した人の情報発信。

移住者たちは、YouTube や Twitter やブログで北海道生活を謳歌していることを盛んに発信し、北海道特有の困りごとを解決しながら生活を楽しんでいる。移住計画を遂行する過程を事細かにリポートしている人もみかける。このような人たちからの情報をどうやって活用するか考えてみたい。

資料2 「道民意識調査」について （道民意識調査全体に対するご意見）

- ・ 結果の概要の中に、結果の分析と今後の対応等が示してあるとよかった。

- ・ 郵送配布でない方法が考えられないだろうか。

- ・ 調査自体は評価するが、こうした調査結果が道政にどう反映されているのか、道民に分かりやすく知らせてほしい。

- ・ 調査項目は毎回内容が異なるとのことだが、「広報活動について」など、一部でも同じ調査項目を作った方が、毎年の推移が分かり調査の目的である動向の的確な把握につながっていくのではないか。

資料3 前回会議を踏まえた新たな取組について

- ・もっと具体的な提案を増やして、取り組みも増やしていただけるのが理想。

○今年度（令和2年度）一年間を振り返り、北海道における広報広聴活動について

- ・コロナ関連の報道は引き続き頑張っていたきたい。これは道政情報だ、と誰もが分かるアイコンが必要と思う。何かで統一しないと道からのメッセージと気づかない。
- ・Instagram「北海道ミライノート」は、道内各地とのつながりを実感でき、美しい景観の写真は旅をした気分を味わえ、コロナ禍においては道民としても特に有益。コロナを経験した今後は、観光に加え移住・定住に関する情報への期待が高まっているように思う。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い様々な苦労があったかと思う。特にインターネットを活用した発信では、道民が求めている情報をタイムリーに届けていただいた。今後、広聴活動においても期待する。
- ・知事Facebook はほぼ【新型コロナウイルスに関連した～】【○月○日時点の発生状況】で占められているので、（知事Facebook ではなく）「北海道新型コロナ情報」であるほうが、もっと届きやすいと思う。
- ・道の連絡事項（地震への備え、恐竜化石カードなど）であれば、知事発信というより、「北海道からのお知らせ」、「北海道ニュース」のほうがしっくりくる。
- ・（Facebook のタイトルが）「北海道知事 鈴木直道」であれば、知事の動静や（知事の）生の声を期待してしまう。全国的に注目度の高い鈴木知事のアピール力は大きいと思うので、これが美味しいとか、これを利用してみると面白いとか、すすきのを視察したらこうだったとか、知事の声を通して伝えて、北海道を知ってもらうのが本来の目的だったのではないかと感じる。
- ・広報広聴課職員が、研鑽も含め真摯に積極的に取り組んでいることがわかり、とても勉強になった。全国的な基準で言えば、奇をてらったような取り組みは少ないと感じるが、自由でユニークな都道府県による広報も賛同を得られる状況になっていると思うので、職員自身がワクワク楽しめる個性的な広報活動を取り入れられると、より幅が広がり、北海道の情報が多様な方々に届くのではないかと感じた。

- ・ネットの発信は各振興局からも旬な情報が入って、得るところの多いもの。ただ、動画、ブログ、フェイスブック…と、入り口が多すぎるので、集約したところから、見たい探したい情報に辿り着くよう工夫してほしい。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大を受け、道政情報を求める道民は増えていると思う。今後もさまざまなメディアを活用し、積極的に広報活動を展開してほしい。
- ・新型コロナに関して市町村職員が動画でリレーする取組があったが、規律を守り模範的な行動が想定される市町村職員がリレーするよりは、飲食店ごとに対応の温度差がある中、まじめな飲食店が損している印象があるので、飲食店の感染対策紹介のリレーのほうが見る気が起きたかもしれない。

○広報紙「ほっかいどう」について、配布が行き届かない、また紙媒体を読まない年齢層の道民向けにweb版の試行を検討していることについて

- ・デジタルネイティブな年代は、双方向メディアになれており、フォロワー拡大中のSNSをうまく取り込み、参加意識を高めていけることを期待。
- ・大変良い試みだと思う。「Web版の試行」を前面に出す場合は、移行ではなく試行であることを記載されると意図が伝わりやすくなるのではないかな。
- ・出来ることならページ数をもう少し増やしてほしい。
- ・新聞社も近年ネット配信に重点を置いており、広報紙のWeb版もニーズは高いと思う。ネットであれば動画なども活用が可能となるため、Web版ならでの取り組みに期待する。
- ・意識的にアクセスする人は希であろうから、閲覧の動機づけだったり、誘導方法だったり、偶発的に目にしちゃう仕掛けだったり、という部分が一番重要かつ難しいものなのだと思う。

○来年度（令和３年度）、道と市町村がお互いの広報紙面を活用し、相互に読者を誘導できるような取組を検討していることについて

- ・市町村の広報誌予算から増ページは叶わないと考えると、QRからのウェブ誘導はよい形と思う。ただ記載するだけではアクセスされないため、あなたのまちのこの新たな取り組みは、実は道の施策でした、という身近な事例を紹介すると、道職員の流した汗も報われると思う。
- ・IT弱者へのケアも必要なためリンク先記事の見出して概略がイメージできる配慮も必要と思う。
- ・広域的な連携を推進していく上でも、広報紙を相互に紹介し合う取り組みは非常に有効と感じる。地域の活性化にもつながっていくことと思うので、是非実現していただきたい。
- ・QRコードで読ませるweb版は、スマホファーストのレイアウトに（パソコンで読む前提のPDFでは、スマホでは読みにくい）
- ・連動させる媒体で、広報紙「ほっかいどう」を読みたいくなるような誘導記事（「続きはこちらから・・・」など予告編のようなものでも良いかも）があると、より効果的だと感じた。
- ・新聞折り込みチラシに紛れてしまうので、市町村広報紙と一緒に配布はできないだろうか。
- ・市町村でもweb版が普及すれば、全道の広報紙をネットで一覧できるような方法も検討してほしい。